

# 2015年「天皇陛下の御誕生に感謝（今年に当たり）」 宮内庁HP

昨年は大雪や大雨、さらに御嶽山の噴火による災害で多くの人命が失われ、家族や住み家をなくした人々の気持ちを察しています。

また、東日本大震災からは4度目の冬になり、放射能汚染により、かつて住んだ土地に戻れずにいる人々や仮設住宅で厳しい冬を過ごす人々もまだまだ多いことも憂われます。昨今の状況を思う時、それぞれの地域で人々が防災に関心を寄せ、地域を守っていくことが、いかに重要かということを感じています。

今年は戦後から70年という節目の年に当たります。多くの人々が亡くなった戦争でした。各戦場で亡くなった人々、広島、長崎の原爆、東京を始めとする各都市の爆撃などにより亡くなった人々の数は誠に多いものでした。この機会に、満洲事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び、今後の日本のあり方を考えていくことが、今、極めて大切なことだと思います。

この1年が、我が国の人々、そして世界の人々に、幸せな年となることを心より祈ります。

## 第26回IBBYニューデリー大会基調講演 (前略)

宮内庁HP

私が小学校に入学した時に戦争が始まりました。昭和16年(1941年)のことです。向う年に産まれる頃は戦況が悪くなり、生後直後はそれぞれに練成を求め、又は学校帰郷として、田舎に帰郷していました。私の家は父と兄が東京に

残り、私は妹と共に、母につれて海辺の山に、住居を移し、3度目の疎開先で疎開しました。

遠慮なる移居と転居には異動であり、真ん中真ん中、方便の方々の生活には、戸惑いを感じることも少なくなりましたが、田舎での生活は、時に興味がなかった私をすっかり飽きさせ、無理を強いたり、罵倒をしたり、時にはナンセンスなカラオケを、それを手探りで4キロずつ出してという、愚問のノルマにも嫌気がした。8キロの距離は早では持たせられ、母が背中を舐めさせてくれ、学校まで運びました。車気が手に入らなくなり、母は

朝の車のために山を歩いた、その世話と乳が私に私にまかせてくれた。

教科書以外ほとんど読む本がなかったこの時代に、たまに父が東京から持ってきてくれる本は、どんなに嬉しかったか。無敵が少ないので、惜しみず読みました。そのような本の1冊に、今、題を覚えていないのですが、子供の

ために書かれた日本の神話伝説の本がありました。日本の歴史の項のこの時代の物語を神話や伝説は、どちらか8世紀前に記された2冊の本、古事記と日本書紀に記されていますから、恐らくはその本から、子供向けに再編されたものでしょう。

父がどのような気持ちからその本を選んだのか、喜怒哀楽から、その時、その後もさかたにはありません。しかしこれは、今考えると、本当にいい贈り物であったと思います。なぜなら、それからも戦争が終わりに、米軍の占領下に置かれた日本では、教育の方針が大転に変わり、その後は歴史教育の中から、神話や伝説は全く削除されてしまったからです。

私は、自分が子供であったため、民謡の子供時代のよさの太古の物語を、大賞賞白く読みました。今思うのですが、一冊の神話や伝説は、正確な実用ではないかもしれませんが、不思議とその想像力を刺激します。これに民謡の世界を加えると、それぞれが異なる人が、どのような想像力や才能を持っていたか、何を喜び、何を恐れ、どのような想像力を抱いていたか等、うろたえてしまうことが感じられます。

父がくれた神話伝説の本は、私に、個々の家族以外にも、民謡の民謡の場があることを教えてくれるもので、私に一つの場所のようなものを与えてくれた。本というものは、時に子供に愛する道をも与え、時にどこにも興んでいける勇を与えてくれるもののようなもので、むしろ、この時の喜びこそ、かきかき自分の勇気をくれたという喜びのことで、それ以後、これが自己独立という大きな道に少しずづ近づいていくと、ほんの第一歩に過ぎないものではなかったのです。

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

又、これは必ずといっていい程に読まれたことのないのですが、この本は、日本の物語の原型ともいえるべきものを私に示してくれました。やがてはその広大な世界に、児童文学が生まれる力強い原型です。そしてこの原型の子供時代の出会い

## (4月8日)

思い出すと、戦争中はほとんどの人々の生活が苦しかったように思いますが、そうした中でこの文庫の編集者が「絶望」や「身体検査」のような話を、何故ここに選んで置いたのか不思議なことでは

生きていく限り、避けることの出来ない多くの苦しみに、ある時誰かから子供に贈らさなければいけぬ、という思いがあったのでしょうか。そしてお話をのんでみれば、思えば誰もが苦悶しているのだということも、子供達に知ってほしいという思いがあったのでしょうか。

私は、この文庫の編集企画をした山本有三につき、この小説や戯曲による出版社は知らないのですが、「日本名作選」及び「世界名作選」を編集するにあたっては、子供に喜ばせたい、涙にこれをおつれてほしい、有りと、その協力者の強い願いがあったのではないかと感じられてなりません。

(4月8日) 思い出すと、戦争中はほとんどの人々の生活が苦しかったように思いますが、そうした中でこの文庫の編集者が「絶望」や「身体検査」のような話を、何故ここに選んで置いたのか不思議なことでは

生きていく限り、避けることの出来ない多くの苦しみに、ある時誰かから子供に贈らさなければいけぬ、という思いがあったのでしょうか。そしてお話をのんでみれば、思えば誰もが苦悶しているのだということも、子供達に知ってほしいという思いがあったのでしょうか。

私は、この文庫の編集企画をした山本有三につき、この小説や戯曲による出版社は知らないのですが、「日本名作選」及び「世界名作選」を編集するにあたっては、子供に喜ばせたい、涙にこれをおつれてほしい、有りと、その協力者の強い願いがあったのではないかと感じられてなりません。

(4月8日) 思い出すと、戦争中はほとんどの人々の生活が苦しかったように思いますが、そうした中でこの文庫の編集者が「絶望」や「身体検査」のような話を、何故ここに選んで置いたのか不思議なことでは

生きていく限り、避けることの出来ない多くの苦しみに、ある時誰かから子供に贈らさなければいけぬ、という思いがあったのでしょうか。そしてお話をのんでみれば、思えば誰もが苦悶しているのだということも、子供達に知ってほしいという思いがあったのでしょうか。

私は、この文庫の編集企画をした山本有三につき、この小説や戯曲による出版社は知らないのですが、「日本名作選」及び「世界名作選」を編集するにあたっては、子供に喜ばせたい、涙にこれをおつれてほしい、有りと、その協力者の強い願いがあったのではないかと感じられてなりません。

(4月8日) 思い出すと、戦争中はほとんどの人々の生活が苦しかったように思いますが、そうした中でこの文庫の編集者が「絶望」や「身体検査」のような話を、何故ここに選んで置いたのか不思議なことでは

生きていく限り、避けることの出来ない多くの苦しみに、ある時誰かから子供に贈らさなければいけぬ、という思いがあったのでしょうか。そしてお話をのんでみれば、思えば誰もが苦悶しているのだということも、子供達に知ってほしいという思いがあったのでしょうか。

私は、この文庫の編集企画をした山本有三につき、この小説や戯曲による出版社は知らないのですが、「日本名作選」及び「世界名作選」を編集するにあたっては、子供に喜ばせたい、涙にこれをおつれてほしい、有りと、その協力者の強い願いがあったのではないかと感じられてなりません。

(4月8日) 思い出すと、戦争中はほとんどの人々の生活が苦しかったように思いますが、そうした中でこの文庫の編集者が「絶望」や「身体検査」のような話を、何故ここに選んで置いたのか不思議なことでは

生きていく限り、避けることの出来ない多くの苦しみに、ある時誰かから子供に贈らさなければいけぬ、という思いがあったのでしょうか。そしてお話をのんでみれば、思えば誰もが苦悶しているのだということも、子供達に知ってほしいという思いがあったのでしょうか。



天皇陛下の御即位十年に際し(平成11年) 宮内庁HP

皇太子の親友たちは、休業中の金谷ホテルを借りきってそこに収容された。学習院初等科五年生としての授業は、東大日光植物園の建物を教室がわりにして行われた。金谷ホテルから教室までは、隊伍を組み、軍歌を歌いながら通うのが常だった。

昼食は、級友たちは、金谷ホテル製の弁当を食べ、皇太子には、御用邸で大厨が作った特別弁当が届けられた。加藤英明「天皇家の戦い」(新潮社、一九七五年刊)には次の記述がある。

「他の生徒たちはホテルがつくった弁当を、丸いアルミ箱に入れて持ってきたが、皇太子は昼になると、御用邸から内舎人が、紫の袱紗に包んだ黒の漆塗りの重箱を教室まで運んできた。そして、内舎人が魔法瓶をあけて、やはり漆の御碗に赤だしを注いだ。他の生徒の弁当も、食糧事情が悪くなったとはいえ、最後まで米飯であったし、おかずもかならず何かついてはいたが、皇太子の弁当に、美しい卵やきや肉が入っているのを、羨ましそうに盗み見ながら食べた」

しかも日光の山下とはいえ、冬になると内陸部の寒さはきびしいものがあつた。「ご学友」の一人は、次のように回想している。

「秋から冬になると、私たちのいた金谷ホテルは暖房がなかったから寒くてたまらない。栄養失調気味のところへもってきて寒気だからとてもこたえた。ところが、御用邸のはうには電気ストーブの暖房があつたのですね。そこで、さすがに見かねたのか、冬になったら御用邸のなかの日本間を教室にすることにされたのです。ですから御用邸へ通学するのが楽しみました。もっとも考えてみると、暖房のない植物園内の教室へ皇太子殿下をいれて、風邪でもひかせてはという心配があつたのでしょうけど」(千田夏光、前掲書)

しかし皇太子にも悩みはあつた。その時の級友の一人新波正直は語っている。

「とにかく暖房は大変でしたよ。食糧が不足していて、途中からはおかゆでした。カビのはえたタタミが出たこともあります。ホテルは、日本間ばかりで、一部屋に十人くらい押しこめられてました。そう、私たちと、上の学年とで、二百人くらいはいたでしょう。皆例外なく栄養失調で、タムシなんかできちやうって……。あの頃は、面会日が定められていて、その日には東京から父兄が訪ねて来て、一日いっしょに過ごしたんです。皆近くの植物園へ行つて家族と持参の弁当で食事をしました。ある面会日のとき、私たちがそれぞれやって来た家族と弁当を食べたら、殿下が馬に乗つてお付きの人と植物園に採まされてね。僕らは、馬に乗つてカッコいいアなんて思つたら、あとで殿下がその日のことを作文に書いたんですよ。「友達が家族の人と楽しそうにしてもらやましかつた……」ってね。考えてみりゃ、殿下のところには、誰も面会には来てくれないから……彼のその作文を先生が読んでくれて、ああそうだったのか、寂しいんだなあ

(甲 2)

「同宿のいくらも年の違わない少年飛行兵は飛行機はもうないから、爆弾をかかえ、戦車に体あたりする訓練をする。すべてが皇太子にとっては生まれて初めての体験だった。なにより皇太子の心をゆすぶつたのは、少年飛行兵たちの死ぬための訓練だったのだから。八月に入つてすぐ、奥日光をおとすれた参謀本部第二部長有末精三中将に「なぜ日本は特攻隊戦術をとらねばならないのか」と質問をしているが、この時の体験と思考はおそらく今日の皇太子の思考の原点になっているのではないか」(千田夏光、前掲書)

天皇陛下ご即位十年に際し(平成11年) 宮内庁HP

天皇陛下

私の幼い日の記憶は、3歳の時、昭和12年に始まります。この年に盧溝橋事件が起こり、戦争は昭和20年の8月まで続きました。したがって私は戦争の無い時を知らないで育ちました。この戦争により、それぞれの祖国のために戦った軍人、戦争の及んだ地域に住んでいた数知れない人々の命が失われました。哀悼の気持ち切なるものがあります。今日の日本が享受している平和と繁栄は、このような多くの犠牲の上に築かれたものであることを心しないといけなと思います。



朝日新聞

1945年8月11日

慶び! 天地に満つる夜



1933年 12月24日

民草の奉祝に  
聖上いと御満悦  
東宮様には御安眠

夜一第の山内大る漲氣瑞

御母子様  
極めて御  
御誕生

下殿子太皇  
戦局に深き御關心